

表紙:長崎税務署 絵はがき (久米幹男氏寄贈)

ご挨拶

明治 29(1896)年 11 月の税務管理局官制により、全国に 23 の税務管理局 と 520 の税務署が誕生しました。

税務署は府県の国税事務を分離して創設されますが、その前身の時代から、独立した庁舎への移転が徐々に進められます。

国有の庁舎を一度に建設することは財政上困難なため、多くは民間の建物を 賃貸しました。しかし、適当な庁舎の確保は簡単ではなく、地元の有志や町村が 建設した庁舎を賃貸するケースもあります。

税務署数は、日露戦後の明治 42 (1909) 年と関東大震災後の大正 13 (1924) 年の行政整理で急減します。そして、大正 14 年の大蔵省営繕管財局の設置により、政府の営繕事業の統一が図られ、税務署庁舎の国有化も進められます。

令和 3 (2021) 年の税務署数は 524 で、創設時とほぼ同数です。今回の特別 展では、税務署庁舎の歴史を振り返ります。

令和3年11月

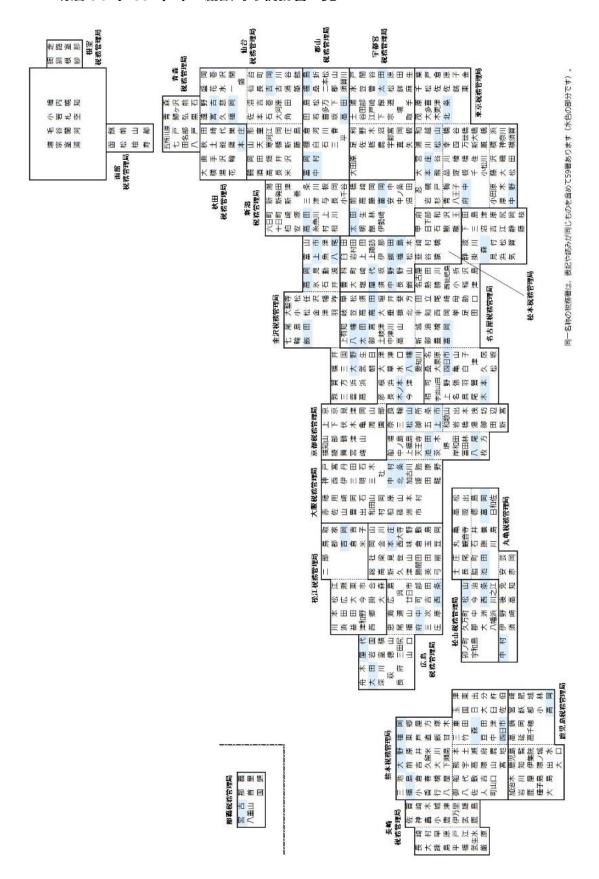
A. 税務署の統廃合とその影響

税務署は、税務行政や納税者の便宜、国の財政上の理由などによる統廃合で増減します。また、郡や市町村など、地方制度の改正や地域の盛衰などの影響も受けます。

明治 42 年 (1909) の 93 の税務署廃止にともない、大規模な庁舎の移転や署名変更が行われました。地域によっては、税務署復活の請願や陳情が行われ、復活した税務署もあります。また、管轄の変更にともない、税務署の誘致が行われることもありました。

このコーナーでは、明治期の税務署の統廃合とその影響について、ご紹介します。

1. 明治30(1897)年 創設時の税務署一覧



2. 税務署数の変遷



創設時に520あった税務署は、日露戦争後の明治42 (1909) 年に400、関東大震災後の大正13 (1924) 年に345に減少します。その後、戦中期 に増加しますが、戦後の昭和22(1947)年に455、同23年に494と急増します。なお、令和3(2021)年現在の税務署数は524です。

3. 収税署の郡役所からの分離

明治 28 (1895) 年 仙台国税局 移管



大河原収税署など5収税署を民間の建物に移転させる旨についての、宮城県知事から大蔵大臣宛の報告案です。明治22(1889)年の府県収税部出張所の設置以降、独立庁舎への移転が徐々に行なわれていましたが、なかなか進みませんでした。

この年、大蔵省主税局は、収税署用の適当な官有 地や庁舎建築費用の調査を指示しています。庁舎移 転費用は府県徴税費から捻出されますが、主税局と しても庁舎の分離を進めようとしていることがわ かります。

4. 同一名称の税務署

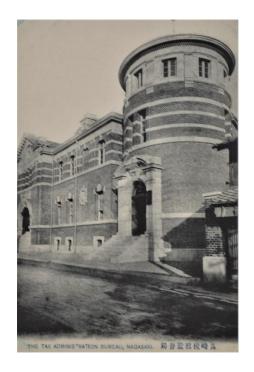
明治 39(1906)年 江差税務署 移管

税務署は収税署名を引き継いでいますが、一般的には立地する市町村名が付けられているようです。しかし、府県から国の機関になると、59 もの同一名称の税務署が誕生し、事務上の支障も少なくありませんでした。この時点では、同一名称の税務署は 44 に減少しています。ただ、明治 36 年に奈良県の御所税務署が高田税務署と改称され、「高田」は逆に3署から4署に増えています。



5. 長崎税務監督局と長崎税務署の絵はがき

明治 41 (1908) 年 久米 幹男 氏 寄贈



長崎税務署は、長崎税務監督局との合同庁舎で、1 階は税務署、2階は税務監督局が主に使用しました。 大蔵省臨時建築部が設計した、レンガ造りの2階建 ての建物です。

官有庁舎の建設は、税務管理局と税務署の合同庁舎が優先され、神戸・名古屋・京都の順に進められました。

長崎税務監督局は明治 42 (1909) 年に廃止されますが、大正8 (1909) 年に移転するまで税務署として使用されました。

6. 大田原税務署の絵はがき

明治末年頃 久米 幹男 氏 寄贈

大田原税務署(栃木県)は大田原町 の那須郡役所に併設されていました。 この絵はがきには、庁舎の右側に 「栃木県那須郡役所」、左側に「大田原 税務署」の門標が見えます。税務署と 郡役所が併設されている時代の珍し い絵はがきです。

大田原税務署は、大正3 (1914)年 に郡役所から別の庁舎に移転します。



7. 税務署統廃合の予告

明治 42(1909)年 茨木税務署 移管

行政整理による税務監督局と大阪税務監督局管内の税務署統廃合の予告が、大蔵次官通牒の 抜粋で通達されています。大阪局管内は、10署が5署に統合され、一方で分割により2署が新 設されました。

このとき、税務監督局は 18 から 13 に、税務署は 439 から 400 に減少しました。しかし、ごく一部ですが、その後の地域住民の運動により復活した税務署もあります。





8. 税務署の統合と改称

明治 42(1909)年 東京国税局 移管

統廃合にともなう、税務署改称と所在地の告示です。このときの統廃合により、同一名称の税 務署はなくなります。

県庁所在地の税務署名が残され、他は21署中19署が町村名から郡名に変更されています。









9. 小浜税務署長の民心調査

明治 42(1909)年 小浜税務署 移管

明治 42 年、小浜署(福井県)は、雲浜署(遠敷郡)と高浜署(大飯郡)を統合して新設され、 旧雲浜署を仮庁舎として開設されました。

税務署長の管内視察により京都税務監督局に報告された、合併後の民心の状況です。税務署が遠くなって少し不便になったとか、無くなって寂しくなったという声はあるものの、特に不平の声は聞かれないと記されています。 統廃合による税務行政への影響が注視されています。



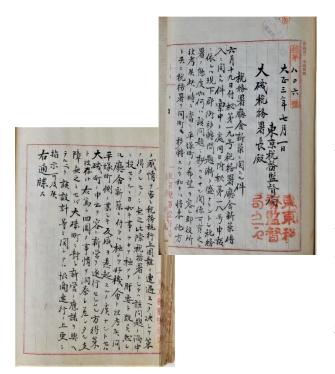






10. 大磯税務署の移転問題

大正3(1914)年 平塚税務署 移管



大磯税務署(神奈川県)は、かねてより大磯町と新庁舎建設の検討を進めていました。しかし、中郡役所の平塚町への移転問題が持ち上がり、大磯町の移転反対運動により郡役所改築が決定しました。

大磯町は郡役所改築を優先させなければならず、税務署は町の有志による建築に変更されました。費用は有志が株式を引き受ける方式で調達され、大正4(1915)年に完成します。税務署は、大磯町に存続することになりました。

B. 絵はがきになった税務署

戦前期には、税務署庁舎の絵はがきが多数作成されています。これらは庁舎新築の際に税務署 が作成した「記念絵はがき」と、民間の営業者が販売目的で作成した「名所絵はがき」に大別で きます。

記念絵はがきは、庁舎や事務室、管内の名所をセットにしたものなど様々です。また名所絵はがきには、税務署などの官公署や街並み、地域の名所などが入っています。地域の人々にとって、税務署はランドマークのひとつだったのです。

このコーナーでは、いろいろな税務署の絵はがきをご紹介します。

11. 淀川税務署(大阪府)の記念絵はがき

昭和6(1931)年 久米 幹男 氏 寄贈

昭和6 (1931) 年の新築記念絵はがきです。淀川税務署は大正 15 (1926) 年に玉造署を分割して新設されました。庁舎は元高等女学校で、交通の便も悪く、管内の所得調査委員や主要な企業が庁舎新築を陳情しました。











12. 出町税務署(富山県)の名所絵はがき

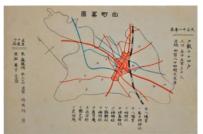
大正 11 (1922) 年 久米 幹男 氏 寄贈

出町(現・砺波市)の名所絵はがきで、町役場や税務署、町の略図などがセットになっています。大正 15 (1926)年に廃止される郡役所が記載されているので、大正末年頃の作成と推測されます。大正 11 (1922)年に福野町(現・南砺市)から税務署移転請願が出されたことが、絵はがき作成の契機になっているようです。











13. 平税務署(福島県)の絵はがき

大正 11 (1922) 年 久米 幹男 氏 寄贈

大正 11 (1922) 年に作成された新築記念絵はがきと(平名所)絵はがきです。名所絵はがきには、平署の新庁舎と大正 15 (1926) 年に廃止される郡役所があるので、大正末年頃の作成と推定されます。名所絵はがきには「税務所」などの誤字も散見されます。











14. 民間作成の新築記念絵はがき

久米 幹男 氏 寄贈

先にご紹介した記念絵はがきとは、少し異なる絵はがきをご紹介します。新築記念と印字されたものと、記念スタンプが捺されたものの2種類です。どちらも式典用に作成されたことは同じですが、スタンプが無いものは、一般の名所絵はがきとしても販売されたのではないかと思われます。大浜税務署の絵はがきは、スタンプが有るものと無いものの2種類が確認されています。なお、記載されている年号は、絵はがきの作成年ではなく庁舎の建築年です。



大正5年 山形税務署(山形県)



大正8年 松任税務署(石川県)



大正3年 西大寺税務署(岡山県)



大正2年 下館税務署(茨城県)



明治44年 粉河税務署(和歌山県)



大正2年 洲本税務署(兵庫県)

大正 15 年 大浜税務署(愛知県)

大浜署の名所絵はが きは、これ以外にも作成 されています。



(庁舎)



(庁舎内部)



(庁舎、記念スタンプあり)



(庁舎内部、記念スタンプあり)

15. 税務署のある風景

久米 幹男 氏 寄贈

「名所絵はがき」になった税務署をご紹介します。

税務署庁舎は、名所や名勝としてランドマークのひとつになっています。官公署の存在は町の 発展や歴史を示すもので、地域の有志や町村が建設した庁舎も少なくありません。街の風景のひ とつにもなっている税務署は、より身近な存在であったようです。



大正 11 年 名寄税務署(北海道)



明治37年石巻税務署(宮城県)



明治44年 粕壁税務署(埼玉県)



大正9年 七尾税務署(石川県)



明治44年 豊橋税務署(愛知県)



明治 38 年 味野税務署 (岡山県)



明治43年 八幡浜税務署(愛媛県)



大正 10 年 長崎税務署(長崎県)



明治 42 年 天草税務署 (熊本県)



明治 33 年 八幡税務署(滋賀県)

八幡署の絵はがきは、モノクロと彩色の2種類が作成されています。

C. 昭和の税務署庁舎

大正 13 (1924) 年の行政整理により、税務署は創設以来もっとも少ない 345 になりました。 関東大震災後、多大な損害を被った諸官庁の復旧が必要となり、大正 14 (1925) 年に大蔵省 営繕管財局が設置されました。そして、経費節約のため、各省の営繕事務の統一が目指されます。 昭和元 (1926) 年度の国有庁舎は約半数でしたが、昭和8 (1933) 年には6割弱に増加しました。

日中戦争がはじまると、東京・大阪・名古屋・福岡などの大都市部で税務署が増設されます。厳しい財政状況のもと、再び地元有志による庁舎建設が行われるようになりました。

このコーナーでは、主に昭和期の庁舎建設に関する史料をご紹介します。

16. 松本税務署(長野県)の移庁式典







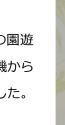


(松本税務署 提供)

昭和3(1928)年









(久米 幹男 氏 寄贈)

鉄筋コンクリート二階建ての庁舎で、移庁式典では租税委 員の感謝状贈呈や納税表彰も行われました。

式典後に行われた松本税務署移庁祝賀協賛会主催の園遊会は、大勢の市民が参加する盛大な催しになり、飛行機から納税宣伝チラシが散布され、祝賀ムードを盛り上げました。

17. 一宮税務署(愛知県)移庁式の記念品

昭和4(1929)年 大竹 潔 氏 寄贈

一宮税務署(愛知県)の移庁式で来賓等に配付された記念品一式です。記念絵はがきや記念誌 「一宮税務署しるへ」、小学児童納税感想録「稚き世嗣人の夢」などが入っています。

記念誌には昭和3年の昭和天皇の即位の礼を記念して行われた、納税表彰者や管内の納税成 績の一覧などが記載されています。小学児童納税感想録は、将来の納税者である小学生の税の作 文集で、学校教育との連携がなされています。新庁舎落成記念式典は、より一層の納税奨励を推 進する機会とされていました。

なお、工事概略には複数の地元篤志家が庁舎敷地を提供し、一括して一宮市から国に寄付され たことが記されています。

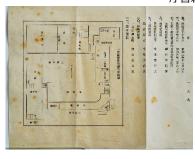


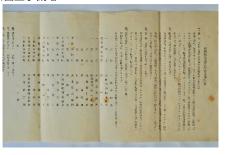






庁舎新営工事概略





宮税務署しるへ



小学児童納税感想録(稚き世嗣人の夢)



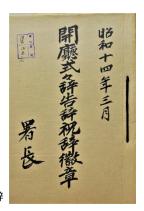
王子税務署(東京都)は、昭和12(1937)年7月に新設され、王子区役所の旧庁舎(元・王子町役場)に開設されました。ただ、この庁舎は狭隘で老朽化も進んでおり、新庁舎建設は喫緊の課題でした。しかし、日中戦争下での庁舎新築は難しく、所得調査委員から民間での庁舎建設が提案されました。

新庁舎は、管内の諸工場で構成する王子工場協会や社会事業団体である王子報徳会の尽力により、昭和14年2月に落成します。両団体には、警察署の寄宿舎建設などの実績があり、新庁舎の管理は建設費用の寄付者を会員とする王子報公会が行いました。

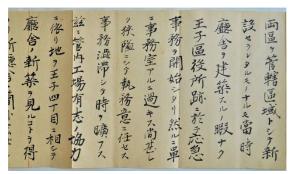
その後、庁舎は国により買い上げられました。

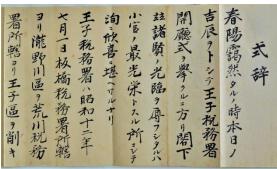


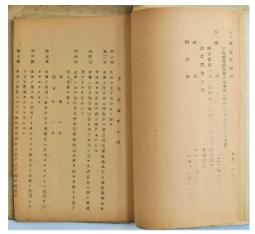
昭和30(1955)年の王子署庁舎(東京国税局移管)



王子署長による開庁式式辞 (王子税務署 移管)







王子公報会規約(王子税務署 移管)





庁舎建築経過(王子税務署 移管)

江戸川税務署 (東京都) は、昭和 22 (1947) 年7月に亀戸税務署を分割して新設されました。 亀戸税務署の庁舎は、昭和 22 年度限りで返還しなければならず、前年度から庁舎建設の検討が なされていました。これが、江戸川税務署に引き継がれます。

当時の財政事情では国有庁舎の建設は難しかったため、東京財務局に打診のうえ、民間の篤志家による庁舎建設計画がスタートしました。増加所得調査委員会で新庁舎建設が発議され、同委員を中心に新庁舎建設協賛会が発足します。そして、建築資材の高騰や9月のカスリーン台風の被害など、様々な困難を乗り越え、昭和23(1948)年2月に新庁舎が落成しました。



江戸川税務署落成記念(岸田 祐二 氏 寄贈)

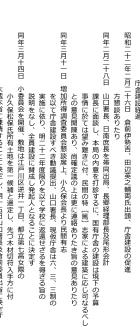
江戸川税務署新庁舎建設協賛会が作成した、庁舎 落成の記念誌です。新庁舎や役員一同の記念写真、 会員名簿などが一枚ずつ貼られています。



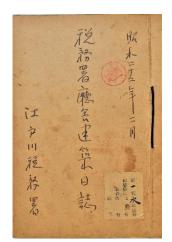
江戸川税務署庁舎(岸田 祐二 氏 寄贈)



江戸川税務署新庁舎建設協賛会会員 (岸田 祐二 氏 寄贈)







税務署庁舎建築日誌(江戸川北税務署 移管)

昭和 22 年 2 月の庁舎建設に関する最初の懇談から、昭和 23 年 2 月の落成式まで、約 1 年間にわたる新庁舎建築の経過を記録した江戸川税務署の日誌です。

20. 庁舎にまつわるエピソード

◆富山税務署(富山県)

明治 43 (1910) 年に地元有志が庁舎として貸与した元・北陸生命保険会社の建物です。官有化の際に、多大な功績に感謝状が贈呈されています。



明治 33 (1900) 年の庁舎 (紅谷 義次 氏 寄贈)



明治43 (1910) 年の庁舎 (久米 幹男 氏 寄贈)

◆木更津税務署(千葉県)

大正 6 (1917) 年、同署は区裁判所の復活により仮庁舎への移転を余儀なくされました。そして大正 11 (1922) 年に旧横浜税務署の用材で新庁舎が建設されました。



大正6年の庁舎(久米 幹男氏 寄贈)



大正11年の庁舎(鈴木 直美 氏 寄贈)

◆巻税務署(新潟県)

明治23(1890)年に巻収税部出張所として建設され、戦後まで使用され続けた庁舎です。



明治 24(1891)年の直税分署(個人蔵)



昭和3(1928)年の庁舎 (名古屋国税局 移管)

21. 今に残る税務署庁舎

◆郡上稅務署(岐阜県)

郡上署は大正8(1919)年の郡上八幡町の大火で焼失し、大正9(1920)年に新築されました。現在は郡上市の文化施設として活用されています。



昭和3 (1928) 年の庁舎 (名古屋国税局 移管)



現在の郡上八幡博覧館(郡上八幡博覧館 提供)

◆相川税務署(新潟県)

平成 21 年に国指定の登録有形文化財に指定されました。



昭和6 (1931) 年の新庁舎 (名古屋国税局 移管)



現在の旧相川税務署(佐渡市 提供)

◆森税務署 (大分県)

森署は大正 13 (1924) 年に廃止され、復活後の昭和 9 (1934) 年に庁舎が落成しました。 後に玖珠署と改称され、現在は玖珠町が管理しています。



昭和9年の庁舎(久米 幹男氏 寄贈)



現在の玖珠郡教育会館(玖珠町 提供)

^{令和3年度 特別展示} 庁舎にみる税務署の歴史

> 発行 令和 3 年 11 月 1 日 作成 税務大学校 租税史料室

